

(2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

本研究委員会では、授業の見直しと質的改善を図るための手立てとして、**授業の質的改善を図っていく1年間の流れ**と理科の授業振り返りシートを考えました。**授業の質的改善を図っていく1年間の流れ**を図1に示します。

1 学 期	4 月	第一期	【計画】 ○ 自分の授業の現状を把握し、どこに目を付けて改善を進めるかを考えます。 【実践】 ○ 年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を実践します。 【評価】 ○ 年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を分析します。 【反映】 ○ 分析したことを基に、年間を通して取り組む手立てを修正・決定していきます。
	5 月		
	6 月	第二期	【計画】 ○ 決定した年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業づくりをします。 【実践】 ○ 決定した年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を実践します。 【評価】 ○ 決定した年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を分析します。 【反映】 ○ 分析したことを次の授業に生かせるようにします。 ※ 第二期と第三期は、明確に分けることができません。 この時期においては、【計画】、【実践】、【評価】、【反映】を無理のない範囲で、できるだけ多く行うことが大切です。
7 月			
8 月			
9 月			
10 月			
2 学 期	11 月	第三期	
	12 月		
	1 月		
3 学 期	2 月	第四期	○ 児童の姿を年度当初と比較し、児童の変容を分析します。 ○ 年間を通して取り組む手立てがどの側面から見たら有効で、どの側面から見たら有効でないかを整理します。 ○ どのような学習内容のときに、また、どのような児童の実態に対して、どのような手立てが有効だったかを整理します。 ○ 次年度の授業の質的改善に向け、生かせる資料を整理します。
	3 月		
			※第一期～第四期の時期は、授業者によって個人差があります。 ※第一期～第四期の考え方は、アクション・リサーチの考え方にに基づき設定しています。

図1 授業の質的改善を図っていく1年間の流れ

図1中の【評価】のステップにおいて、より実態に即した授業分析ができるように、分析に関わる人とその際に必要と考えられる資料について、次頁表1のように整理しました。

表 1 分析に関わる人と必要と考えられる資料

必要と考えられる資料 分析に関わる人	学習ノートやワーク シートの児童の記述	授業の様子を 記録した録音や録画	学習指導案と 授業の参観
本人（授業者）のみ	A	B	E
本人（授業者）と第三者	C	D	

※第三者は、同学年の先生，同じ学校の先生，その教科に詳しい先生，参観の先生など

A, B に対して, C, D, E は, 分析に関わる人が複数に及ぶため, 時間の調整などに負担がありますが, 客観的な指摘や助言が得られることもあり, より質の高い授業分析にすることができます。また, 本人 (授業者) 以外の授業を見る目を磨く機会としても有効です。A, C に対して, B, D や E は, 機材, 資料などの準備や時間の確保に負担がありますが, 学習ノートやワークシートに児童が記述するに至った教師の指導や児童の学習活動の経緯を確認することができ, より詳細で質の高い授業分析にすることができます。

「第一期には, 一度は第三者を交える」「第二期には, 学習ノートやワークシートから分析する」「第三期には, 一度は指導案を書いて, 第三者に授業の参観をお願いする」というように, 授業の質的改善に向けて, 必要に応じて使い分けるとよいと思います。

また, 授業経験の浅い先生は, 第三者の分析を聞く機会を増やすことで, 授業を見る目を養うことにつながります。授業経験の豊富な先生は, 授業経験の浅い先生の気づきを尊重しつつ, 違う角度から授業を見る示唆を与えるなどの配慮をすることが大切です。

また, 理科における授業の質的改善に向けた実践の分析をするに当たり, 表 2 のような理科の授業振り返りシートを作成しました。

表 2 理科の授業振り返りシート

理科授業振り返りシート						
	名前 ()					
	主体的な学びの視点		対話的な学びの視点		深い学びの視点	
	児童の姿	教師の手立て	児童の姿	教師の手立て	児童の姿	教師の手立て
自然の事象・現象に対する 気づきから 問題を 見いだす						
予想や仮説を 設定する						
観察、実験を 構想し、 計画を 立案する						
観察、実験を 実施し、 得た結果を 整理・分析 する						
見いだした 問題に対して 結論を 導き出す						
学習を 振り返る						

以上を踏まえ、分析者と用意する資料、理科の授業振り返りシートを用いた授業の質的改善のための時期について、述べていきます。

ア 第一期について

第一期の中には、【計画】【実践】【評価】【反映】の4つのステップがあります。第一期では、単に4つのステップを経て終わりということではなく、必要に応じて前のステップに戻りながらよりよいものを目指す必要があります。

【計画】

ここでは、自分の授業の現状を把握し、どこに目を付けて授業の質的改善を進めるかを考えます。

○ 自分の授業の分析

まずは、自分の現状把握です。理科の授業振り返りシートの児童の姿の欄（前頁表2赤太線枠囲み）を書きます。どのようなことでもいいので、「とりあえず書いてみる」という気持ちで、できるだけ18枠全て書いてみましょう。できあがったものを見ると、以下のような分類ができると思います。

- ・ 児童のできている姿が多く書かれている欄
- ・ 児童のできていない姿が多く書かれている欄
- ・ 児童の姿が書かれていない欄

次に、理科の授業振り返りシートの教師の手立ての欄（前頁表2青点線枠囲み）に自分が現在取り組んでいることを書きます。ここも、どのようなことでもいいので、「とりあえず書いてみる」という気持ちで、できるだけ18枠全て書いてみましょう。ここでも以下のように分類してみましょう。

- ・ 手立てが書かれている欄
- ・ 手立てが書かれていない欄

児童の姿と教師の手立てという2つの視点で授業を分析したら、次に進みましょう。

○ 年間を通して取り組む手立て

前項で把握した自分の授業の実態から、年間を通して取り組む手立てを決めます。

まず、理科の授業振り返りシートに書いた児童の姿をどのように変えたいのかを考えます。気になるところがたくさんある場合でも、過度の負担にならずに着実に改善を進めていくためには、学習過程のどこか1つに絞ることが授業の質的改善につながっていくと考えます。このとき、以下のような考え方があります。

- ・ 児童のできていない姿を、児童のできている姿で書き表せるようにする。
- ・ 児童のできている姿を、よりできている姿で書き表せるようにする。
- ・ 書き表すことができなかった児童の姿を、できている姿で書き表せるようにする。

どの考え方も、できている姿で書き表せるようにするという点では同じです。自分の書いたものと、「2(1)新学習指導要領に関わる理論研究-2」に挙げている理科における「主体的・対話的で深い学び」の内容と比較し、そこから見えてくる目指す児童の姿を考えましょう。

目指す児童の姿と改善する学習過程が決まったら、年間を通して取り組む手立てを決定します。学習過程ごとに、どのような年間を通して取り組む手立てがあるかについては、別紙資料の**手立て集**を参照してください。また、市販の実践事例集などには、様々な手立てが掲載されていますので、自分が納得して取り組めそうなものがない場合には、そのような書籍を参考にされることも大切だと思います。

年間を通して取り組む手立てが決まったら、【実践】のステップに進みます。

【実践】

ここでは、自分が決めた年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を通して、その手立てで児童の力が伸ばせそうかを、実際に授業を行って確認します。次の【評価】【反映】のステップを成立させる上で、児童のどのような姿をどのように変えたいのかを見据えて、児童の姿を把握できるようにしましょう。また、分析する人と用意する資料を考え、依頼や手配を準備することも忘れないようにしましょう。授業を終えたら、【評価】のステップに進みます。

【評価】

ここでは、実際に行った授業について、次の3つで分析します。

- ① 児童に良い方向の変容が見られますか
- ② 年間を通して取り組む手立てはきちんと機能していますか
- ③ 児童が年間を通して取り組む手立てに基づいて活動しようとしていますか

ここでの分析は、いろいろな角度から授業の分析ができるように、自分以外に分析する人を立てておくことが大切です。

【反映】

分析の結果から、ここでは、次のように反映をしていきます。

分析① 児童に、良い方向の変容が見られますか。

- ・見られる → 年間を通して取り組む手立てを決定します。
→ 第二期に進みます。
- ・見られない → **分析②** に進みます。

分析② 年間を通して取り組む手立てはきちんと機能していますか。

- ・機能している → 年間を通して取り組む手立ての見直しをしましょう。
その後、再度【実践】へ進みます。
- ・機能していない → **分析③** に進みます。

分析③ 児童が年間を通して取り組む手立てに基づいて活動していますか。

- ・活動している → 自分が授業で行っている年間を通して取り組む手立てを見直し、

再検討しましょう。

その後、再度【実践】へ進みます。

・活動していない → 再度、自分の授業の分析をしましょう。その上で、年間を通して取り組む手立てを再検討しましょう。

その後、再度【実践】へ進みます。

以上のことを、「**第二期に進む**」となるまで行っていきます。授業の質的改善においては、この**第一期**が最も重要です。ここでしっかりと年間を通して取り組む手立てを見極めることが、改善された授業の質を決定付けるといっても過言ではありませんので、十分に時間を掛けて行いましょう。

イ 第二期・第三期について

第二期と**第三期**は、することに大きな違いはありません。しかし、その意味合いは異なります。

第二期…【計画】【実践】【評価】【反映】を重ねながら、主に、手立ての拡充を図る。

第三期…【計画】【実践】【評価】【反映】を重ねながら、主に、児童の変容をつかむ。

第二期と**第三期**は不可分で、この時期までは手立ての拡充を図る、この時期からは児童の変容をつかむ、と明確に区別することは難しいです。図3のように違いを意識しながら進めていくことが良いと考えています。

第二期	第三期
主に、手立ての拡充を図ることを意識	主に、児童の変容をつかむことを意識

図3 第二期・第三期における手立ての拡充と児童の変容把握の割合イメージ

【計画】

ここでは、年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業づくりをします。学習内容によっては、決定した年間を通して取り組む手立てがうまくいきやすいもの、うまくいきにくいものがあります。うまくいくからする、うまくいかないからしないということではなく、うまくいかないから、うまくいくようにするための手立てを講じるようにします。授業づくりを終えたら、【実践】のステップに進みます。

【実践】

ここでは、実際に自分が構想した手立てを取り入れて授業をします。次の【評価】【反映】のステップを成立させる上で、児童のどのような姿をどのように変えたいのかを見据えて、現在の児童の姿を明確に把握できるようにしましょう。授業を終えたら、【評価】のステップに進みます。

【評価】

ここでは、実際に行った授業を分析します。「年間を通して取り組む手立てが機能したか」、「児童に良い方向の変容が見られたか」、「教師の手立ての過多がなかったのか」の3つについて分析します。授業の分析が終わったら、【反映】のステップに進みます。

【反映】

ここでは、授業の分析結果を基に、以降の授業に生かせる手立てを位置付けたり、よりよい手立てを探ったりします。また、児童の学びを自身のものにするという観点から、児童が自身の力で学習活動を進めていけるような授業にすることを考えることも大切です。

第二期・第三期は、不断の授業の質的改善そのものです。ここで【計画】【実践】【評価】【反映】のステップを多く踏めるかどうかで、改善された授業の質が決定します。

ウ 第四期について

第四期は、年間を通して行ってきた手立てを授業の質的改善として体系付ける時期です。

○ 自分の授業の分析

第四期の自分の現状把握をし、第一期の自分の現状と比較しましょう。理科の授業振り返りシートの児童の姿の欄を書きます。できるだけ18枠全てを書きましょう。今回も、以下のような分類ができると思います。

- ・ 児童のできている姿が多く書かれている欄
- ・ 児童のできていない姿が多く書かれている欄
- ・ 児童の姿が書かれていない欄

児童のできている姿を多く書いている欄が増えている、児童のできていない姿を多く書いている欄や児童の姿を書くことができない欄が減っている、という点が、児童の姿の変容です。目指す児童の姿に近付けたかを分析しましょう。

次に、理科の授業振り返りシートの手立ての欄を書きます。ここは、自分が取り組んだことは全て書くという気持ちで、できるだけ18枠全てを書きましょう。ここも分類してみましょう。

- ・ 手立てが書かれている欄
- ・ 手立てが書かれていない欄

手立てを書いている欄が増えていたり、欄の中の手立てが増えていたりする、手立てを書いている欄が減ったりしている、という点が、教師の指導法の拡充です。様々な場面に対応できるような授業ができるという点で、授業の質的改善が図られていると言えるでしょう。

これらの年間を通して取り組む手立てで、有効であると感じられたものについては、どの側面から見たら有効で、どの側面から見たら有効でないか、どのような学習内容、児童の実態のときに、どのような手立てが有効だったかを整理し、次年度につなげましょう。